

33 帝国女子医専創設者額田豊・晋兄弟の医家系譜

中山 沃

帝国女子医学専門学校は大正十四年（一九二五）三月、額田豊・晋兄弟によって創設され、次いで東邦医科大学、東邦大学医学部となり今日に至っている。この兄弟は岡山県邑久郡長船町飯井の医師額田篤太、宇多夫妻の長男と次男である。

額田家は太仲―一中―篤太―豊・晋兄弟と続く岡山の近郊で重きをなした医家の家系であるが、約十年前、この兄弟の生家から多くの古書籍、写本、文書などが岡山の市中央に放出、売買された。演者はその当時その若干を入手したが、医学関係の資料は極めて少なかった。このたび豊・晋の秀才兄弟を出した額田家の医家としての背景を調査したので発表する。

額田家のもと備前赤坂郡（現赤磐郡）に住み、先祖は浦上氏の武将額田十郎左衛門で、下って備前赤坂郡大刈田郡高尾山城主額田与門正利あり、その末孫は婦農し、同郡の大庄屋を世襲した。

豊らの曾祖父太仲（一八〇九―一七〇）の名は秀恒、字は徳夫、通称太仲、箕山と号した。若くして大阪に遊学し、藤沢東咳（南岳の父）を援けて学塾泊園書院を開いた。のち帰り邑久郡飯井村に医業を開き、郷党病者の師として終始し、明治三年（一八七〇）十一月十四日死去、年六十二歳。妻は備前和気郡伊部村の森氏、三男二女あり、長男一中継ぐ。

一中（一八三四―一九八）諱は伯幣、初め文哉と称し、のち一中と改め、碧処と号した。医術を難波抱節に学び、更に安政三年（一八五六）十月三日、紀州華岡青洲の塾に入門した。漢学を豊後の広瀬淡窓に学び、また長崎に至り蘭学を学び帰国し、医業を継いだ。資性温厚篤実で、学を好み、詩を能くした。明治三十一年（一八九八）九月五日、六十五歳で死去。妻は小野氏、一女（宇多）あり。

篤太（一八五七―一九〇二）名は則重、幼名は徳太、のち

篤太と改名、美作国勝北（現勝田）郡大町村福原直平の五男。篤太は安政四年（一八五七）四月に生まれ、文久年間から明治五年まで野々上帯刀、佐々木勇四郎、上森元甫に從い、和漢学研究、明治四年（一八七二）額田一中の養子となり、その娘宇多と結婚、明治五年より十一年まで備中の山田方谷、但馬の池田草庵、京都の春日潜庵に儒学を修め、明治十一年より樫村清徳に從い、内、外科、ドイツ語を学ぶ。明治十二年から同十五年まで東京大学医学部別課に学び、同十六年卒業。次いで帰郷し先業を継いだ。名声近隣に高かった。明治十九年コレラ流行に際し、岡山区の避病院長心得に任ぜられる。明治三十四年（一九〇二）十月一日胃癌のため死去。人となり寛厚沈毅、英邁、著書に『伉儷選択鏡』。四男一女あり、長男豊、次男晋、三男坦、四男貞、長女静子。

豊、明治十一年（一八七八）三月二十三日生まれ、東京市独逸学協会中学校、第一高等学校を経て東京帝国大学医学科を明治三十八年（一九〇二）十二月卒業。青山（胤通）内科に入局。明治四十年（一九〇七）ドイツ・ミュンヘン大学に自費留学。同四十二年（一九〇九）帰国。引き続き東大付

属病院に勤務。大正二年（一九一三）医学博士、そして東京市麻布（現港区）今井町に額田病院を創設、院長に就任。同九年（一九二〇）神奈川県鎌倉町に額田保養院を創設、院長に就任。大正十四年（一九二五）東京市大森に弟晋と共に財団法人帝国女子医学専門学校を創立、開校、理事長に就任。その後、幾多の変遷を経て、昭和二十五年（一九五〇）校名を東邦大学と改称、初代理事長及び学長に就任。同三十二年（一九五七）両職を辞任。同四十七年（一九七二）七月二十九日死去、九十四歳。

晋、明治一九年（一八八六）十二月二十二日生まれ。独逸学協会学校、第一高等学校を経て大正元年（一九一三）東大医学部を卒業、恩賜の銀時計を授与。東大第三内科（青山胤通教授）、ついで薬理学教室（林春雄教授）に師事、アメリカ・ハーバード大学留学、学位授与を経て順天堂医院の研究所長に就任。大正十四年（一九二五）兄豊と共に帝国女子医学専門学校を創立、初代校長および病院長に就任。昭和二十二年（一九四七）東邦医科大学の設立により学長に就任。同三十二年（一九五七）東邦大学の二代目理事長、学長に就任。同三十八年（一九六三）両職を辞任。翌三十九年九

月二十九日死去、七十七歳。

(旭川荘厚生専門学院)

34 練堀町時代の佐藤尚中

大 滝 紀 雄

練堀町時代すなわち明治六年より八年に至る期間、佐藤尚中が私立の病院を開き、患者の診療に従事したことは、既定の事実である。しかしこの期間尚中が引き続いて学生の医学講義を実施したことは、文献上明らかでなかった。ところが、尚中の弟子たちによって、私学済衆舎開学願いが明治六年十一月東京府に提出されている事実や、尚中自身によるこの期間に出された卒業印書が発見されたため、練堀町時代、尚中による医学講義が実施されていたことはまぎれなく間違いないと思われるようになった。

東京都公文書館に所蔵されている書類に、「済衆舎開学願書」がある。提出者は第五大区小二ノ区浅草西鳥越町甲二番地松平忠敬邸内寄留 山口県営下平民 渡邊泰造で、